

- ◇開催日時 平成29年10月12日(木)19時~20時30分  
◇会場 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール  
◇参加者 20名  
◇内容

「子どもを育てる!教師も育つ!? 生徒会活動」  
~E S Dの理念にもとづいた生徒会活動の展開~  
講師 奈良市立三笠中学校 教諭 九鬼 淳子氏

#### 1. 自己紹介

- ・兵庫県出身なので奈良のことは全く知らなかった

#### 2. 新採の頃

廊下をバイクが走っていた。3階の廊下でも。

授業中に爆竹がなる。スモークボールを投げ込まれる。授業がなかなかできない。

給食前には牛乳爆弾が降ってくる。真夏には風船爆弾。

毎日がしんどくて、やめたい、やめたいと思っていた。生徒がこわかった。

- ・でも、荒れている生徒はごく一部で、ほとんどの生徒はまじめだった。
- ・やんちゃな子どもこんな人間になりたいという希望を持っているという、生徒のことがわかってくると、見方も変わっていく。
- ・6月「生徒会リーダー研修会」を1泊2日で実施することとなった。

生徒の声

荒れた学校をなんとかしたい。

先生たちはいいよな。辞めたら逃げられる。でも私たちはここで3年間生きていかなあかんねん。

男子トイレで大便ができない。ドアがない(シンナー、喫煙)。ペーパーがない。トイレットペーパーのある学校にしたい。

- ・三分の一ほどの生徒は中学校受験に失敗して、しかたなく進学してきている。しかたがないからこの学校にきているという現状。この学校に来たいという、そういう学校にしたい。
- ・地域からも「こわい学校」というイメージがもたれていた。

→ きれいな学校にしよう。

- ・7月、クリーンキャンペーンを実施する。

廊下のガム取り作業、100人程が参加。やんちゃな生とも参加し、ガム取りの大変さを体験して、ガムを捨てないようになる。

- ・校区でもクリーンキャンペーンを実施する。アーケード街でのガム取り作業もする。これを長年にわたって続けることで、お店のかたがたからも喜ばれた。
- ・大阪にポイ捨て条例ができたことから、生徒からポイ捨て条例を作ろうと提案があり、管理職も支援してくれた。1995年市長へ「ポイ捨て禁止条例」制定の嘆願書を提出。
- ・2005年度全国環境美化教育優良校として表彰される。

○子どもはみんな「学校をよくしたい!」という思いを持っている。子どもの思いによりそい、応えて



いくことが大切。

○あきらめずに「どうすればいいのか」「どんなことならできるか」を考えることが大切。

○子どもを変えられることができるのは、子どもである。子どもの力を信じることの大切さ。



### 3. 子どもの力を信じよう！（転勤した山間部の学校で）

- ・地域清掃：梅林近くのトイレの清掃
- ・友愛訪問：高齢者宅を訪問し、草刈りや窓ふきを行い、高齢者から話を聞く。
- ・アルミ缶回収活動：すべての家に生徒が袋を配布し、アルミ缶を収集してもらう。それを売り、得た収益で車椅子などの福祉機器を購入し、プレゼントする。（平成8年から21年継続。これまでの実績：回収したアルミ缶は64トン、5,954,804円の収益、123台の福祉機器、二酸化炭素削減量：459トン）
- ・2004年度全国環境美化教育優良校
- ・2009年度全国環境美化教育特別賞  
→ 生徒の自信や意欲につながる。

東日本大震災復興支援募金活動を翌日から実施（生徒の提案）。

- 中学生の力はスゴイ！「たかが中学生、されど中学生！」
- 生徒会担当の役割は、子どもの自主性を支援すること
- 先輩から後輩へ、受け継ぎ、継続することで大きなことができる！
- 地域に貢献することは、自分たちの未来をつくることだ。

### 4. 三笠中学校生徒会の取組

- ・生徒会憲章（1994年から草案を練り始め、1996年に制定）がある。今の学校教育にも通じる、よく考えられた指針。
- ・全ての生徒会活動・学校行事には、字幕を作成する。（難聴学級が設置されている）難聴生徒だけでなく、全ての生徒にとってわかりやすい。（Hidden Curriculum 色々な人が一緒に生きていること）学校には様々な生徒がいる。中でも最も弱い立場、しんどい立場にある生徒のことを第一に考えることがリーダーにとって重要なことを指導している。
- ・生徒総会  
学級ごとに教室の座席の並びと同じ配置で座っている。クラスごとに話し合っ、学級代表がまとめて提案・報告・投票する。
- ・生徒総会を伝達会にするのではなく、全校生徒が話し合い、意思決定する場とする。

- ・生徒一人ひとりが「理想の学校」を目指して努力しよう。
- ・色団活動：異年齢の生徒集団が協力して活動する。  
縦割り集団・兄弟学級による「色団活動」を実施。
- ・ユネスコ活動  
2008年ユネスコスクールに認定  
2011年コミュニティスクールに認定  
2012年ユネスコ部の発足  
ボランティア活動を実施（佐保川清掃など）  
生徒手帳にボランティア証明欄を設けている（校長先生の印）
  - ・地域ボランティア等への参加が増える
  - ・地域行事の運営や防災活動に積極的に参加できるようになった。
- ・生徒会リーダー研修会（1990年頃から実施）  
年度末と夏休みの2回  
実施前に全校生徒にアンケートを実施し、それをもとに実施する。（日々の生活や規則、ルール等について答えてもらう）  
分析やグラフ化なども本部役員が行う。  
→ 授業に積極的に取り組んでいる人ほど、学校のことも好きであることが判明した。  
授業に積極的に取り組もうと提案。  
本部役員が運営を行う（司会・ファシリテーター）。全教員が参加。  
「スーパー生徒会役員」でなくていい。適材適所の分業制で。
- ・他の学校のことも知りたいという生徒の要望  
→ 奈良市中学校合同生徒会リーダー研修会を実施（2014年から）  
今年は8月18日に第4回リーダー研を実施（13校、63名が参加）  
教育大のユネスコクラブの学生が支援。  
奈良市子ども会議やいじめ防止なら子どもサミットへも積極的に参加。



## 5. 生徒会活動の位置づけ

- ・学習指導要領では特別活動として位置づけ。  
校務分掌としては、生徒指導担当者や特別活動担当者が担当している。
- ・生徒指導要録にも生徒会活動について記載する欄がある。
- ・新学習指導要領では内容が広がっている。  
ボランティア活動などへの社会参画  
学校行事への協力  
生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
- ・若手の教員が担当になることが多い。

## 6. まとめ

- ①それぞれの学校の今までの活動を確認する
- ②学校の特性や強み、活用資源を見出し、活かす方法を考える。

- ③子どもにどんどん意見を出させ、前向きに受け止め、一つでも実現させる（絶対に無理とは言わない）。
- ④子どもに様々な経験をさせる。（地域行事にもどんどん参加を！）教師がめんどくさいという雰囲気  
で提案しては子どもは参加しようとしなない。
- ⑤子どもに充実感と達成感を持たせる（注意するときは10ほめて1つ注意）。具体的にほめる。

- 先輩から後輩へと受け継がれた「伝統」その「継承」と「発展」
- 「生徒会活動」は、未来をつくる活動。将来的に社会をつくる活動につながっている。
- よりよい学校をつくることは、よりよい社会をつくることにつながっている。
- 中学校で経験したことは大人になってつながっていく  
E S Dの実践につながっていく。



※次回は、11月8日（水）19時～20時30分 次世代教員養成センター2号館多目的ホール  
「担任のちょっとしたしぐさにこめられたちょっとしたねらい」  
～「あの先生、なんでそんなことしてるんやろ？」を探る～  
講師 奈良教育大学附属小学校 河野 晋也 氏

多数のご参加をおまちしています。

